

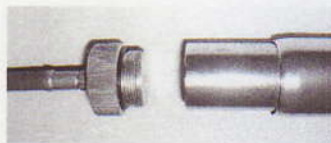
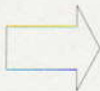
PLS-60の使用手順

1. PLS-60は、冷媒量が1700gまで使用できます。(冷媒量が1700gのA/CシステムにPLS-60 1本/60mlの割合で使用します。)例えば500gの冷媒量のエアコンサイクルであれば、 $60\text{ml} \div 1700\text{g} = 0.035$
 $0.035 \times 500\text{g} = 17.5\text{ml}$ ということで1台当たり17.5mlのPLS-60を使用します。
但し注入の際、必要量より少ないと漏れが止まらない場合がありますので若干多めに注入して下さい。
残ったPLS-60は保管が可能ですので他のエアコンサイクルに使用できます。
2. エアコンシステム内にフロンガスがある場合は、回収機等で回収し、冷媒がエアコンシステムに無い状態にして下さい。
3. PLS-60で漏れを止めることができるサイズであるか、使用する前に次の手順を必ず行ってください。

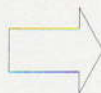
エンジンとエアコンをOFFにし、真空ポンプを用いて5分間真空引きを行ってください。5分間の間にゲージマニホールドの目盛りが635mm/Hgに達しない場合は → 漏れが大きすぎるためPLS-60で漏れを止めることはできません。本品を使用しないで下さい。ゲージマニホールドの目盛りが635mm/Hgに達したら、真空ポンプを止めて5分間待ちます。5分後ゲージマニホールドの目盛りが585mm/Hg以上を保持していない場合は → 漏れが大きすぎるためPLS-60で漏れを止めることはできません。本品を使用しないで下さい。

※ 但し、漏れの状態によっては上記数値をクリアしていても漏れが止まらない場合があります。上記は目安であり、保証するものではありません。

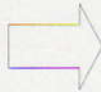
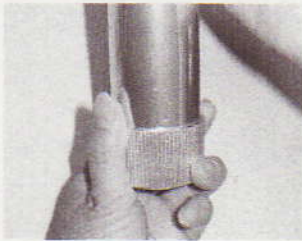
4. 3. の手順で漏れ止め可能サイズであることが確認できたら、A/Cシステムにフロンガスを満充填にして下さい。1700gの冷媒量に対して PLS-60 1本/60ml を使用しますので、使用するエアコンの冷媒量を確認し、適量を注入する準備をして下さい。但し、車によってはガスを満充填にすると PLS-60 の溶剤が注入しにくい場合があります。その場合には、先に PLS-60 の溶剤を注入してからガスの充填を行ってください。
5. PLS-60の注入作業手順は、PLS-60KIJ注入器セットを使用した場合の手順となります。PLS-60KIJを購入されていない場合は、コンプレッサオイルの注入手順と同様と考えてください。その場合には、カーメーカーのサービスマニュアルに従って注入作業を行ってください。
6. 注入器のふたを回しながら写真のように取外します。



7. 取り外したふたのホースの先に、エアージョイントアダプタを取り付けます。



8. 注入器のピストンハンドルを反時計回りに回すと注入器内部のピストンが下がり、PLS-60の液剤が入るスペースができます。



9. PLS-60を図のように注入器内に全部(60ml)入れ、PLS-60の液がこぼれない様に注意しながら、ふたを確実に閉めて下さい。



10. 注入器のシリンダー内とホース内に空気が入っていますので、エアージェットを行います。
注入器を縦にし、ピストンハンドルを時計方向にゆっくり回します。
徐々にピストンが漏れ止め剤を押し上げ、漏れ止め剤がエアージェット用アダプタの口金の内側に染み出てきたらエアージェットは完了です。



11. エアージェット用アダプタを取外し、ホースの先端の口金の内側に染み出ている漏れ止め剤を、ウエス等で拭き取って下さい。

12. R-12の場合は、そのままエアコンサイクルの低圧側サービスポートに接続します。R-134aの場合は下記のようにR-134a用クイックカブラをホース先端に取り付けて下さい。

